

温泉地紹介

ブラジル・イグアスの温泉

A Hot spring in Foz do Iguaçu, Brazil

和歌山県立医科大学・衛生学

宮下 和久

成田から空路 23 時間の旅を経て、南米はブラジルの最大の都市サンパウロに到着，そこから西へさらに 1 時間半の空の旅を経て Foz do Iguazu に到着する。

去る 2003 年 2 月 23 日から 28 日までの会期で第 27 回国際労働衛生学会がイグアスで開催され、筆者は、主要研究領域の一つである産業医学関連の研究発表のため、この地を訪れる機会を得た。

熱帯に属するこの国は、2 月は夏期で雨期の終わりの頃だという。1 月は猛暑で比較的涼しいイグアスも今年は猛暑の 40℃ を越える真夏日が続いたという。涼しいと言っても気候は連日 32~35℃、蒸し暑い天候である。日本の冬の真中から突然ブラジルの真夏に引き込まれた筆者は、すぐにはこのヒートストレスには順応しがたい日が続いた。

学会の日程の合間をぬって、世界遺産で世界最大の滝、イグアスへ〈写真 1〉。イグアスの滝は亜熱帯雨林の豊かな水量をたたえて流れるイグアス川が、突然、長さ約 4 km 落差 80 m の間に大小約 300 の滝が段をなして連なり、膨大な水のしぶきを立てて大瀑布を形成している。イグアスの滝は約 1 億 2 千年前からすでに存在していたといわれ、16 世紀に発見されるまでは、世に知られていなかった。ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの 3 国の国境地帯に位置し、1986 年にはユネスコの



図 1

世界遺産に登録されている。

ルーズベルト大統領夫人がこのイグアスの滝を訪れた時、「おお、哀れな我がナイアガラの滝よ」と感嘆の言葉を漏らしたという逸話が残っているように、いかなる言葉をもってもこの偉大な自然の光景を表すことができない程の偉容であった。

会場で宿泊先でもあったマブホテルは、プール、テニスコートなどを備えたリゾートホテルである。ある日、そのプールへのゲート脇にふと掲示板が目に入った。何とプール水が自噴する温泉水だったのである。Mabu Thermas & Resort, Aquifero de Botucatu, 世界一大きい地下水資源ポツカツアフィフェロの上に位置している。水量は毎時3万立方キロメートル。プールに自然に溢れている(自噴している)〈写真2〉。

資料によると温泉水の分析はTECPAR—パラナ州科学技術研究所とアメリカペンシルバニアのMDSラボラトリーで行われた。泉温36℃、アルカリ性(pH8.1)、硫酸塩泉である。

重炭酸ナトリウム 0.3027 g/L,
塩化ナトリウム 0.9732 g/L,
硫酸ナトリウム 2.2489 g/L

充実した学会、偉大な豊かな自然、味わいの味覚、親切で人なつっこいブラジルの人たちとの交流は、23時間という想像を絶する長い空の旅の疲労を癒してくれるに充分な素晴らしい旅でした。



写真 1



写真 2